

認知症の進行と主なサービスの例（アルツハイマー型認知症の場合）



※症状の現れ方には個人差があり、必ず下記の症状が現れるわけではありません。治療内容や周囲の方々の関わりによって、症状が緩和されたり進行が遅くなる場合もあります。

認知症の進行	元気高齢者	軽度認知症 (MCI)	認知症疑い	1人で生活ができる	誰かの見守りがあれば日常生活ができる	日常生活に手助けがあれば生活ができる	ほぼ全ての行為に介護が必要
本人の様子	自立	もの忘れなどの認知機能障害は多少あるが日常生活には支障をきたさない (認知症の診断基準は満たさない)	<ul style="list-style-type: none"> 同じことを何度も言う 昔のことは覚えているが、最近のことは覚えていない 料理の段取りがうまくできない 日づけや場所があいまいになってきた 薬や金銭の管理に困難が出始めている 	<ul style="list-style-type: none"> 季節にあわない服を着る 慣れた場所でも道に迷う 着替えやトイレなど身の回りのことが上手にできない 自分の名前が分からない 怒りっぽく興奮しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 表情が乏しくなる 家族の顔を忘れる 意思の疎通が難しくなる 食事が飲み込みにくくなる 尿意、便意が乏しくなる ほぼ寝たきり状態になる 		
家族の心構え等	<ul style="list-style-type: none"> 外出や人との交流の場をつくることを勧める 市の介護予防教室への参加を勧める 役割をもち、いきいきと生活できるようにする 適切な運動を勧め、バランスの良い食事を心がける 高血圧や糖尿病などの生活習慣病の予防をする 治療中の人は薬の飲み忘れに気をつける 普段と様子が違うと感じたら医師やおたっしや本舗に相談 	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険サービスを検討 おたっしや本舗への相談 接し方の基本やコツを理解する (家族会への参加等) 	<ul style="list-style-type: none"> 介護サービス等を上手に活用できるよう担当ケアマネジャーと検討する 介護者自身の健康管理をする 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活でできないことが増えることを理解する 体調の急変や、床ずれ・肺炎等の合併症に注意する 今後に備えた相談をしておく 介護者自身の健康管理をする 			
主なサービスの例	医療 (5ページ)	認知症疾患医療センター					
		かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局					
		訪問看護					
	相談 (8ページ)	おたっしや本舗 (地域包括支援センター)・認知症地域支援推進員					
		ものわすれ相談室、認知症相談ダイヤル					
		居宅介護支援事業所 (ケアマネジャー)					
		認知症の人と家族の会、認知症カフェ、認知症初期集中支援チーム					
	介護予防 (9ページ)	老人クラブ・サークル活動 など					
		高齢者ふれあいサロン					
		市の福祉サービス・介護予防教室					
見守り (10ページ)	認知症サポーター・佐賀市おたっしや見守りネット						
	地域での見守りや助け合い (民生委員・警察)						
	安否確認事業 など						
生活支援 (10-11ページ)	シルバーバス券購入の助成・高齢者ノリのりバス など						
	軽度生活援助・生活支援サービス など						
介護保険サービス	訪問介護、通所サービス、ショートステイ など						
権利を守る (11ページ)	消費生活センター・あんしんサポート (日常生活自立支援事業)・成年後見制度・法律相談など						
住まい	見守り付き住宅 (ケアハウス)						
	サービス付き住宅 (サービス付き高齢者向け住宅・有料老人ホームなど)						
	介護を受けられる住宅 (グループホームなど)						